

[illegible]

希釈することとした。

3. 現時点での評価

[illegible]

また、浸出水の性状、浸出ガスの組成、埋立地表面の沈下量においては、時間の経過とともに安定化が進行している様子を把握できた。

浸出水は脱水ケース中の有機物が分解された残渣や難分解性有機物が降雨とともに流出するものであった。

しかし、図 1 のとおり、時間の経過とともに浸出水自体の BOD、COD が低下する傾向にあることが判明した。

そのため、希釈する水道水の投入量を低減して対応した。



図 1 安定化進行状況

4. 今後の課題

今回、いくつかの物理的・化学的指標を用いて、埋立廃棄物における安定度を多角的に把握することができた。

[illegible]

今後は、埋立廃棄物である脱水ケーキ自体の有効利用を行い、処分量を低減する工夫が必要である。

また、処分場内部の分解を促進させ、早期安定化を進めるとともに、処分場閉鎖後に跡地を有効に利用できるような設計が必要である。

跡地の有効利用をはじめとして、全体的なリサイクルを進めていきたいと考える。

以上

※ 本論文は、過去の試験制度における経験論文で合格となったものですが、次の点で問題があると考えられます。

〈問題点〉

技術士試験に沿った論文スタイルで、うまくまとめられていますが、技術士として重要となる問題点の掘り下げができていません。

また、解決策（処分場の安定化対策、浸出水対策）は、極一般的であり、通常行われている対策と判断できます。

従って、過去の試験で合格となったものの、技術的体験論文として提出した場合には不合格となる可能性があることをご承知ください。